（郵遞局認可）（日曜日休刊）（定價金三錢）

時事新報

第千三百十六號
明治十九年七月一日　木曜日
舊丙戌五月三十日　（壬戌）
日出午前四時四十八分
日入午後七時十八分
月出午前四時零四分
月入午後六時二十五分
滿潮午前四時三十九分　午後五時零二分
（西曆一千八百八十六年）

時[illegible]報

[illegible]り其場の規模の大小、其俳優[illegible]人士の好尚如何に存すると[illegible]の壯觀にして一廉の裝飾なるは國より猥を容さざるなり左れば我東京府にても追て市區改正と實施するに就ては劇場の位置規摸等に注意せざる可らず佛國にてナポレオン三世が巴里府の市區改正を施行したる折には重も立ちたる劇場を一所に集めて梨園の美觀を耀かすの計畫と爲し英國倫敦府にても自然の便宜に因りてか劇場は重もにストランド街邊に群集するものゝ如し東京の市區改正に就ては劇場を一所に集めんとするか或は從來の儘に任して各所に散在せしめんとするか其邊の趣向は我輩の知る所に非ざれども世事文明の進歩に連れて外國人も追々內地に入り込み見物の遊興を追ふて劇場を窺ふもの多かるべく今後亞細亞博覽會を始め其他外國人の來遊を促すの機會ある毎に遊覽の目的を以て我國に來るものは日本の演劇を目撃して他年の談柄に供す可しとて我國の演劇が外國人の眼に觸るゝ機會はます〳〵多かるべきが故に梨園社會の爲めに謀れば今後劇場の規模を大にし演劇の仕組及び諸道具向きを改良し俳優の技藝を發達するに加へて其位地をも進むると甚だ肝要なりと雖ども事物改良の成敗は概ね資本の有無に歸せざるはなし資本爰に備はれば劇場を改良して見物人の耳目を悅ばしめ兼ねて又都會の盛觀を添ふると左程困難なるにも非ず而して其資本を得るとも亦甚だ容易なる可しと雖ども今日の事情に於て然る能はざる所以のものは他に非ず元來日本の俳優なる者の本源を尋れば多くは河原乞食の發達したるものにして殊に武門全盛の時代に當りて世に賤しめられたることも亦甚だしく彼等の先人は人の門戶に立ち或は通行人の憐を乞ひ其技を售りて其口を糊したるものなるが漸く其仕組を變じて所謂芝居の體裁を成し技藝も次第に上達して遂に今日の劇場を組成するに至りたるなれば其漸次に發達せる間に技藝を授受する師弟の關係、家名の傳授等其由緒特別にして一團の社會を組織し今に至るまで昔を忘るゝこと能はざる故にや教育其宜きを得ず知識學問甚だ乏く隨て社會に對して其位地極めて卑し位地卑きが故に身の責任甚だ輕く技を售り媚を獻ずるの其本色たるは申す迄もなく甚だしきは世間に不評判なる婦女子の玩弄物たる等其社會一帶の空氣何となく高尚ならず又清淨ならずして心ある人は之を近づくることさへ慊しとせず其中の俳優等が無賴贅費を事とし、あれば有るに任せて費し一たび醉飽し去りて常に寒貧なるは言ふに足らず此劇場の會計出納に關る者までも亦俳優同輩の人品にして任俠豪放を事とし大入あれば得々贅費して烟と爲し、客なければ忽ち困難に陷る其最中に無用の縁故類族の者共は倚り餘澤に霑はんとして周圍に集り積年の習慣これを拂はんとして拂ふ可らず夫れ是れの事情の爲めに會計は常に散漫にして收拾す可らず借金層々相重なりて會計の當局者は此借金の淵に坐して一たび劇場を開けば其淵も又一枚を加ふるの趣なり左れば爰に新狂言を仕組んで劇場を開かんとする其都度に先づ金を借らざる可らず此時に當り世の金主は劇場借金の山甚だ高きを望見して危險近づく可らざるを知り容易に其募集に應せず或は奮て之に近づく者は恰も虎穴に入るの勢にて元金は一命を賭する代りに其利子非常に高く開劇一箇月內外の間に凡そ何割に相當するが如き貸方ありといふ斯くて辛うして元利を取立つることを得ば殆んど虎兒を獲たるの觀ある可し金主の爲めには一種の仕事なれども如此にして劇場の會計に餘裕を見んとするは迚も望むべからざる事なり

右の次第なるが故に今日の實際に於て演劇ほど儲かるものはなけれども得失常に相償ふと能はず若し今日の成行に任すれば劇場を改良して帝都の盛觀を添へんとするなどは思ひも寄らず假令へ俳優の技藝は巧にして其人品も亦漸く高きに進む者あるも會計の病は演劇場の膏肓に入りて復た醫す可らざるものゝ如し左れば今此の病を一掃して健全のものたらしめんとするは會計の組織を改革すること固より肝要なりと雖ども然れども從來の跡目を受繼ぎ之を彌縫せんとするは所謂姑息の治療法にして左支右吾迚も目的を達し難きは人事自然の勢なる可ければ爰に斷然一決して從來の劇場は今日限りに分散して先づ借金の筋道を立て身代限りを爲す可きものは速に爲し幾百年來河原芝居に伴ふたる積弊宿害を一掃し俳優も其心事を改革して自から其身を重んじ會計の當局者も劇場を以て確實なる事業と爲し儲けたる時の餘裕を以て損したる時の不足を償ひ規模を大にし趣向を新にせば庶幾くは日本に文明の劇場を見るに至らん我輩の見んことを樂しむ所の者なり（未完）

官報

○內閣達　各官廳

來七月十一日ヨリ九月十日マデ諸官員暑中休暇ヲ賜フ

但明治七年（七月）第八十四號達ノ通心得ヘシ

休暇中內閣ニ於テハ要急事務ノ外ハ取扱ハサルヘシ

明治十九年六月三十日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

○東京府布達第六十號

區部共有金支出收入豫算臨時區部會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治十九年度區部共有金支出豫算

一金二萬四千二百三圓七十錢　源森川緒切開通幷大橫川浚渫費（內譯）　金六千九百五十五圓七十錢　源森川緒切開通費　金一萬七千二百四十八圓　大橫川浚渫費

自明治十九年度至明治二十年度區部共有金支出豫算

一金六萬六千四百五圓　洲崎海面新地築造費（內譯）

金三萬六千四百五圓　十九年度支出額　金三萬圓　二十年度支出額

明治十九年區部共有金收入豫算

一金六萬六百八圓七十錢　收入額（內）　金六萬六百八圓七十錢　瓦斯局拂下ケ代二十年度繰上收入金ノ內

右布達ス

明治十九年六月三十日　東京府知事高崎五六

●虎列剌

流行地	月日	新患者	新舊死亡
廣島縣	六月廿七日	十七人	十三人
大坂府（但レ四區西成郡ニ新患[illegible]十三人新舊死亡[illegible]）	六月廿八日	百四十八人	九十八人
京都府（但レ上下兩京區ニ新患十七人新舊死亡十三人）	同	二十九人	二十四人
兵庫縣（但レ神戶區ニ新患十四人新舊死亡十八人）	同	五十一人	四十一人
岡山縣	同	九人	十人
和歌山縣	同	四人	六人
愛媛縣	同	二十四人	十八人

合計（廿八日）新患二百五十七人新舊死亡百九十七人

○流行地外虎列剌　神奈川縣去る廿七日新患一人、又二十日より二十六日迄總計新患十二人、新舊死亡九人、埼玉縣去る二十六日新患一人、群馬縣昨二十九日舊患死亡一人、靜岡縣一昨二十八日新患二人、長野縣去る二十六日新患一人翌日死亡、愛知縣去る二十五日二十六日新患三人新舊死亡二人、滋賀縣去る十三日より十九日迄新患十人新舊死亡十四人、山口縣去る二十二日新患六人新舊死亡四人なり（神奈川外七縣報告）

（以上本年六月三十日官報）

雜報

○改良食物の献立　今度陸軍にて兵卒一般の食物を改正する由は兼て時事新報へ記せし處なるが今其一週間献立の模様を聞くに概ね左表の如し尤も此外日々三度の食事毎に麵包若干量をも添ゆる筈なりと云ふ

一週間献立表

日曜　朝ソップ（牛、片栗麪五文目、小松菜十五文目）○晝シチウ煮（牛肉三十目、ジャガ芋二十目、大根三十五目、葱三十目、脂三文目）○夕胡麻油煮（牛肉三十目、切牛房二十八目、蓮根二十五目）

月曜　朝スマシ汁（豆腐、小松菜四十目、生玉子）○晝カツレツ（牛肉卅目、三ツ葉廿目、人參三十八目、脂六文目）○夕煮附（牛肉卅目、葱六十目、脂六文目、西洋鹽）

火曜　朝ソップ（牛、大根四十目、葱四十目）○晝オムレツ（鷄卵十六文目、牛肉三十目、法蓮艸六十目、脂六文目、大根卸三十目）○夕煮附（牛肉三十目、糸菎蒻三十五目、燒豆腐、溫飩粉四文目）

水曜　朝スマシ汁（半ペン、青ミ二十五目、豆腐、バタ三文目）○晝カツレツ（牛肉三十目、ジャガ芋三十目、人參三十五目、脂）○夕キャベツ卷（牛肉三十目、キャベツ十文目、蓮根四十五目、梅アヘ）

木曜　朝ソップ（牛、ジャガ芋二十五目、青ミ四十目、アラレ麩）○晝コローケ（牛肉三十目、花菜味醂二十五目、西洋辛子）○夕雜煮附（牛肉三十目、大根三十五目、人參三十八目、菎蒻三十目、脂五文目）

金曜　朝スマシ汁（椎茸三文目、豆腐、青ミ四十目）○晝シチウ煮（牛肉三十目、ジャガ芋二十目、大根三十目、人參三十五目、脂、コショウ）○夕煮附（牛肉三十目、葱六十五目、山椒）

土曜　朝ソップ（牛、結ヒ揚葉、三ツ葉三十目）○晝キャベツ卷（牛肉三十目、鳥芋四十目、ウド三十目）○夕胡麻油煮（牛肉卅目、菎蒻三十五目、八ツ頭芋五十目）

○黃金家の戒心　我國にては常に護衛兵を引連れ不虞の變に備ふる者は內閣諸大臣のみに限る事なるが米國にては有名なる黃金家は何れも暗殺を豫防する爲めに夫々警護のものを雇ひ置く由なり彼のバンダービルト、アストール、ジエイ　ゴールド　などいふ人々の家には何れも嚴重の用心をなし晝夜の見廻りとなす者常に二十人ありて如何なる者にても見廻りの目を潛りて其家に近寄る事を得ず此警護は三年以前にバンダービルド氏が始めしものにて當時同氏の口實とせる所ろは本心より害を加へんとなすものは毫も恐るゝに足らざれども唯發狂人の亂暴を防ぐが爲にかの備をなさゞるを得ずと云ふにありしと曾て米國の西部諸州に於て同盟罷工の騷動ありし際にゴールド氏は其私宅と商店との間の馬車道に一の鐵線を設けもし途中にて非常の事起ると

きは車上に於て鐘鈴を鳴
るを以て警衛の者は瞬時
たることありしとバルチ

○茶の毒　米國ボストン
の茶毒に罹りたる患者
得たる處此頃の同府の
第一　茶の毒は漸次に
ものなり
第二　茶の毒は時に
なれども年若の人及
働を過くするもの
第三　茶の人に害と
居る人に在ては日々
第四　慢性の茶毒は
普通のものは食欲の
臟跳動、頭痛、嘔吐、神
便秘結及び糞門苦痛
るものなり

○神戶通信　（六月二十
道理事官、小牧文部大
田郵船會社鹿島支店長
橫濱より入港せし橫濱丸
付上陸せず該船は今夜
伯は同港より他船に乘
郵次官の一行　今度大
生野、兵庫、馬關、若津、
し同大藏次官は橫瀨參
丸にて來着し辨天濱の
赴き二十七八の兩日間
に造幣局を巡視すると
に滯在せし事ありし朝
神奈川縣の澤田警部其
丸にて着港したるが右
へ送付る由に聞く○出
と認定されたる以來當
長浦に於て消毒法を行
二時出帆の處を午前十
毎火曜日午後六時出帆
出發の名古屋丸より同
まりたり○醫師交番所
交番所（前號に出張所
令に出願せしとの事は
となり費用補助として
となりたり○痢病患者
午前七時迄神戶區內の
十五人、死亡七百八十
百五十八人內全治百七十

○大分縣下近況　六月
に曰く當縣下本年の麥
地方は非常の豐作に
得たりしも豐後地方は
か蝗蟲に及び少く損
く平均七八分の收穫な
今二十餘內外の相應な
作は非常の收穫なりき
りて少しく雨の爲め損